

■仙厓義梵 禅僧。庶民教化に尽くし、隠棲後も敬慕を受け、絵は独自の“厓画無法”の境地に達した。

せんが いぎぼん

・ ・ ・ ・ ・ 1750 = 美濃国武儀郡南武芸村で、小作農井藤甚八の子に生まれたと伝えられる。

徳川吉宗没・1751 = 1歳 :

大弐政治批判1759 = 9歳 :

大岡忠光没・1760 = 10歳 : 古月禅材を師とする上有知清泰寺の空印圓虚が、輪番の汾陽寺住職を兼ねた際、裏山の植林を計画、父が、その山番に雇われた際、空印の目にとまり、その下で得度。義梵の名を授けられる。

・ ・ ・ ・ ・ 1762 = 12歳 : 空印を継いだ兄弟子瑞巖の元でさらに修行、

久留米藩工事1768 = 18歳 : 瑞巖の許しを得て、行脚の途につき、武蔵邦永田の東輝庵に赴き、やはり古月禅材の弟子で峻厳な禅風で知られた月船禅慧のもとで修行。学問を重視する臨濟宗古月派という本流の禅僧になって行く。

田沼意次老中1772 = 22歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1777 = 27歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1781 = 31歳 : 印可された直後、月船禅慧が遷化。東輝庵を辞し、諸国を行脚。帰郷し、清泰寺の住職に推挙されるも、武家の檀家に反対され、大垣の無住寺にいた時、藩政を批判する落首を掲げて、美濃国外追放となったともいわれるが、東輝庵に帰り、兄弟子の物先海旭、誠拙周樗について修行を続けて、古月派を極め、

蘭学階梯・1783 = 32歳 : この年、京都に滞在、北方の石巻まで旅し、諸方の僧堂に歴参、この間の作品として、福島県黒岩の満願寺に、晩年のものとはかけ離れたおとなしいものが残っている。

意知刺殺事件1784 = 34歳 : この年、東嶺円慈が「神儒仏三法合図」を描く。

田沼意次失脚1786 = 36歳 : この前後、再び、京都や近江を旅していたらしく、東浅井郡の安楽寺に立派な墨跡が残っている。

寛政改革始・1787 = 37歳 : 空印圓虚遷化。博多聖福寺の管した太宰府の戒壇院の太室玄昭に西遊を勧められ、

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = 38歳 : 父が死去。博多に下り、栄西の開いた日本初の禅寺(扶桑最初禅窟)聖福寺第122世盤谷紹適に相見し、

初の横綱・1789 = 39歳 : 盤谷に認められて、聖福寺開祖千光国師(栄西)より第123世の法燈を嗣ぐ。

異学の禁・1790 = 40歳 : 栄西の開山忌に拈香文。单身京都に上り、本山妙心寺で、正式に雲水から住職になるための儀式を行う。

混浴禁止・1791 = 41歳 : 盤谷紹適遷化。法事と公務に追われるなか、

松平定信引退1793 = 43歳 :

この間、かつて訪れた石巻の広濟寺のための、「臨濟栽松・南泉斬猫図」を描いている。

写楽・1795 = 45歳 :

ブートン来航・1796 = 46歳 : 太室玄昭遷化。

昌平饗始・1797 = 47歳 : 年紀銘のある最も早い作品「香巖撃竹図」、

古事記伝・1798 = 48歳 : 最大の行事、聖福寺開基源頼朝公六百年忌を行なう。本山妙心寺より瑞世の儀を勧奨されるも断り、自らも切り詰め、知恵を絞って資金を集め、

伊能測量始・1800 = 50歳 : 扶桑最初禅窟の誇りをもって、聖福寺僧堂を再興に着手。

一九膝栗毛始1802 = 52歳 : 母が死去。聖福寺僧堂を再興。妙心寺より、福岡藩家老を通じて、再度瑞世の儀(紫衣)を勧奨されると、

アメリカ船来航始1803 = 53歳 : 持病理由に返答を延ばす一方、藩庁に出世費用拜領を願い出、一部で聖福寺伽藍再興を図る離業後、

イボノ来航・1804 = 54歳 : 使僧を登らせ、残りの資金を取めて、居成瑞世の儀を行なう。

青洲麻酔手術1805 = 55歳 : 信州諏訪慈雲寺徒弟の湛元等夷ほか弟子入り。その後、自らが妙心寺に上ることはなく、自ら招いたという湛元等夷は、知らない字は無いというほどの博学の一方、遊び好きで、修行を終えた夜には、遊郭に通う様であったが、一計を案じて止めさせたという。

・ ・ ・ ・ ・ 1810 = 60歳 : 本山妙心寺で修行していた湛元等夷が帰山、

ゴロツキ拿捕 1811 = 61歳 : なお、福岡藩に、方丈再建のための寄付を願い出たが叶わず、愛する弟子湛元等夷に住職を譲り、

高田屋拿捕・1812 = 62歳 : 聖福寺所蔵の栄西肖像画に着賛し、幻住庵境内の虚白院へ隠栖。重責から解放され、以後、自由に生き、

浮世床・1813 = 63歳 : 「百堂三書」を著す。

黒住教・1814 = 64歳 : 開山栄西の六百年忌を迎える。

・ ・ ・ ・ ・ 1817 = 67歳 : 僧俗貴賤より“仙厓さん”と呼ばれて敬慕を受け、

杉田玄白没・1817 = 67歳 : 法兄物先海旭遷化。漁民定介より海岸にて取得の観音大士像を受納、亡き父母の冥福のために納めて安置する。「点眼薬」を著す。「傑作「曲芸図」を描き、

水野忠成老中1818 = 68歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1820 = 70歳 : 法兄誠拙周樗遷化。

この間、「章魚図」「鶴亀図」、書画一致の境地「百丈野鴨子図」、

英船浦賀来航1822 = 72歳 : 「老子図」「寒山拾得・豊干禅師図屏風」では、自ら“厓画無法”の境地に達したと記す。

シボノ来日・1823 = 73歳 : 美濃清泰寺における「大慧書」会に掛錫する。

この頃の作「馬祖・臨濟図」ほど徹底的に戯画化されているものはない。

異国船打払令1825 = 75歳 :

上洛する。

この間、「龍虎図」「牛若天狗図」「羅生門図」「竹林七賢図」「鏡餅図」「天地和合図」「犬図」「米屋甚太良図」など、まさに、自由奔放で、「傑作「指月布袋図」は、若かりし出光佐三が初めて手に入れ、その後の蒐集の契機になり、また、'これ食ふて御茶まひれ'の賛と一つの円だけで禅を表すという有名な「円相図」もいくつ描いている。そして、賛がなく最も難解ともいわれる究極の作品「○△□」を描き、

シボノ追放・1829 = 79歳 : 「夢遊東輿記」を草する。この頃、博多の大商人で文化人の松永子登との「ゆばり合戦図」。

富籤流行・1830 = 80歳 :

富籤三十六景1831 = 81歳 : 東嶺円慈の「神儒仏三法合図」に呼応する「三徳宝図説並序」を著す。「尊敬する「栄西禅師図」、

鼠小僧磔・1832 = 82歳 : 虚日院庵側に「揮毫お断り」と、絶筆「墨染の袖の湊に筆すてて書にし塊をさらすなみ風」の碑を建て、

・ ・ ・ ・ ・ 1836 = 86歳 : 「ばうぶら図」。湛元等夷が藩庁の怒りにふれ退任したため、再び聖福寺の住職になり、

大塩平八郎乱1837 = 87歳 : 湛元等夷が大島へ流謫された後、「不動明王図」を最後に、病臥し、湛然として遷化した。その「遺偈」は、禅への退職願でもあり、辻惟男によれば、筆跡、句意とも格調高く、歴代名僧に並ぶものである。

出光美術館「仙厓」、藤原東演「禅の名僧列伝」、「西日本人物誌8」、「人づくり風土記(福岡)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典。中山喜一郎「仙厓の○△□」で補足、